

中島総長インタビュー

「できない子供たちを受け入れ、
できる学生にし、
公務員試験に合格させ世に送り出す」

東京福祉大学に来るのは、AランクやBランクから一流大学に行くような子供ではなく、難しい大学に行けない、塾や予備校にも通ったことのないような子供たちです。さらに多くは、働きながら学校に行かなければならないことから、そういうクラスの高校に行かざるを得なかった子供が多いのです。ですから奨学金や助成金を受けている例も少なくありません。言い換えれば、家庭環境に問題のある子供たちが多いのです。

しかし、本校で公務員資格を取ることによって、社会に出てから受け取る給料も下手をすれば倍ほども違いますし、生活も安定させることができるのです。

つまり、公務員になるということはエリートになるということなのです。

それを聞いて、多くの学生たちが頑張って公務員資格を取るようになると、例え育った家庭が貧しくとも、母子家庭のような環境でも、公務員の資格を取ることができれば、安定した生活と収入が確保できるのです。

ですから私はそのことを学生たちに伝え、叱咤激励するのです。

社会情勢とともに新型コロナウイルス感染症によるパンデミックのせいで貧困家庭は増加傾向にあり、母子家庭で母親が仕事を失うような例もあるといます。

そうした状況下で、各都道府県からの奨学金を受けて入学してきた子供たちに対して、別枠で公務員講座の学費を取るようなことをせずに学ばせているのが東京福祉大学の特徴なのです。

いま特筆すべきは小学校の教員不足です。少子化と言いますが、クラスの人数を少なくする方針のせいでクラスが増え、担任の教諭が不足しています。小学校の教員は、採用試験の1次さえ受かれば、たとえ2次試験に落ちても非常勤で臨時採用されることが可能です。そのまま臨時採用で1年間勤めれば、翌年の1次試験は免除となり、2次試験の面接のみで正規採用されることが可能なのです。

では公務員試験に受かるための勉強とはどのようなものでしょう。単純に言ってしまえば、それは暗記です。本学における一般の学問は思考力が問われ、書く力・読む力が大切ですが、公務員になるための勉強はひたすらに暗記が重要なのです。

学問だけでなく、社会生活の中でも、常に正解は1つではありませんし、正解が後になって

わかるような例も少なくありません。ところが公務員になるための試験における正解はとにかく1つしかありません。しかも選択で選ぶ問題で、科目も多い。ですから、できる限り多くの過去問題をひたすら暗記することが大切です。暗記したらそれを、家に帰っても、夜寝る前、食事の時、風呂に入るとき、何回も復習するのです。そうすれば深く記憶に残る暗記ができ、忘れることもなくなり、試験前になって慌ててやるよりもはるかに楽に、そして確実に覚えることができるのです。

過去問題が大切です。とにかくひたすら5～10年分を暗記する。繰り返し復習する。そうすれば国家試験に合格することができるのです。教員試験だけではありません。理学作業療法士の国家試験なども同様です。

ですから教える側も、いかに暗記しやすく教えるかが大切なのです。難しいことを難しく言うのではなく、難しいことをやさしく理解できるように解説して、ひたすら覚えさせるのです。

数的判断や数的理解という数学の問題は、もちろん難しいものもあります。そこで数字を入れ替えただけの類題を5つ作るのです。1問目で半分しか理解できなくても、数字を替えて2問目を解き、さらに3問目とやっていけば、4～5問目にはほとんどの学生が自分で理解できるようになります。

理科系・数学系の問題というのは、正解か不正解しかありません。○か×なのです。ですからその科目で満点を取っておけば大変有利になるのです。

地方公務員には初級、中級、上級とありますが、もちろん甚だ難しいとは思いますが上級になれば副知事まで視野に入ります。東京福祉大学で頑張れば、貧しかったり母子家庭だったりした子供たちにも、日本社会におけるエリートの道が開けるのです。だからこそ、学生たちも頑張るし、教える側も真剣に取り組まなければならないのです。

多くの先生方が、なんとかこの学生をすくい上げよう、道を開いてあげよう、そして優秀なエリートにしてやろうという気持ちを持っているかといえばそうではないと思います。もちろん一定の勉強を教えるというお気持ちはあると思いますが、なんとかこの学生の明るい未来、豊かな未来を切り開いてやろうという意欲は必ずしも高いとは言えないと思います。

よく、物理の授業などで先生が、「これは難しい」と前置きをしてしまうのですが、そうすると学生の8割が落ちこぼれてしまいます。私は友達同士を隣にさせない、できる限り前方に着席させる、などの物理的な方法とともに、いかにわかりやすく説明し理解させるかを重視します。そうやると、私の授業では一般の物理学の授業で落ちこぼれていたクラスが、全員で満点を取るのです。

教師というのは、ただ学生の前でしゃべるのではなく、いかに理解させるかが肝心なのです。先生方は先生方なりに一所懸命やっつけようと思っておりますが、学生たちの個性やバックグラウンドにまで考えが及ばないのではないのでしょうか。下手をすれば、できる学生とできない学生に分けてしまい、できない学生を置き去りにしてしまうことすら起きていると思います。できない学生をできるようにするのが教師の役目なのではないのでしょうか。東京福祉大学というのは、そうした様々な環境から勉強ができない子供たちを受け入れて、できる学生にし、そして公務員試験合格資格を持たせて送り出す大学なのです。